

流行ニュース：

<ペスト、インド>

保健省は、2月4日から19日までにHimachal Pradesh州 Shimla 地方 Hat Coti 村での肺ペスト16例（死亡4例：最終8日発症）を報告した。訪問調査の結果、ある小集落の住人と感染者の間に関係があることが判明した。予防的投与、消毒、ペスト伝染予防の教育プログラムなどを実施した。現在も厳重な警戒下にあるが、インドへの旅行は可である。

<髄膜炎菌感染症、エチオピア>

保健省は2001年9月の集団発生以来、エチオピア南部において累計1,332例（死亡185例を含む）の髄膜炎（髄膜炎菌血清タイプA）を報告した。これまでワクチン接種が行われているが、部分的な流行は抑制しきれていない。この地方は人口約1,250万人であり、高い人口密度、乾季、低い予防接種率から今後の大流行が予想される。

<エボラ、ガボン（最新情報）¹>：

2月23日、57例のエボラ出血熱（死亡48例）の発症を確認した。伝染経路を追跡中である。参照：¹2002年 No.7, p.49

今週の話題：

<ポリオ根絶への進展、エジプト、2001年>

世界保健会議（1988年）以来、地球上のポリオはほぼ根絶した（99%以上）。アメリカ地区と西太平洋地区では根絶され、ヨーロッパ地区も2002年には根絶が可能になるだろう。しかし、東地中海地区ではアフガニスタン、エジプト、パキスタン、ソマリア、スーダンにおいて未だポリオの流行が続いている。以下は、長期にわたる努力にもかかわらずポリオウイルス野生株1型によりポリオ根絶が進まないエジプトの現状である。

* 予防接種：1968年、経口ポリオワクチンが導入されて以来、ワクチン3回投与（OPV3）幼児は、2001年には95%以上となった。一方、245地域のうち5地域では接種率が未だ90%を下回る。

* 予防接種の促進活動：1976年に経口ポリオワクチン接種を開始し、さらに1989年以降は全国ワクチン接種日を制定、ワクチンの戸別配給がエジプト北部の都市部や南部のスラム街に拡大された2000年以降には、接種率が向上した。また、2001年には、ポリオ流行の危険性が高い地域に対して、保健省外部による調査が行われ、全国接種日を1、11、12月に、エジプト北部を中心とした地域別ワクチン接種日を3、4、9月に制定し、エジプト北部では2001年中に合計8回の接種日を設けることとなった。

* 急性弛緩性麻痺（AFP）の疫学調査：AFPの疫学調査は1990年代初めからエジプトで開始されたが、ポリオ以外のAFPの診断率と便標本の収集は過去5年間に改善し、1998年にはAFPの診断率が推奨されるレベル（15歳未満の子ども10万人あたりポリオ以外のAFP1例以上）に到達した。エジプトで検出されたすべてのポリオウイルス野生株は、DNAの解析からエジプト由来のものであることが判明したが、低流行の時期に検出されるウイルスの株種とその遺伝的多様性が減少したことから、ウイルス感染の防止策は有効であると考えられる。

* ポリオの罹患率：ポリオの発症は年間100例（1996年）から5例（2001年）へと減少している。2型ウイルスは1994年、1型と3型が2000年、そして2001年には1型のみが検出された。AFP疫学調査の結果、1999年以来エジプト北部の数地域においてのみ、ポリオウイルス野生株の感染が認められる。2000年には3地域で4例（1型2例、3型2例）のポリオが見つかり、2001年には5例（1型）の感染が確認された（地図1）。1999年以降のポリオ患者は生後7ヶ月から19ヶ月であった。1999年と2000年に発症した2例は経口ワクチンの接種回数が規定以下であったが、残りの例は4回から7回の経口ワクチン接種を受けており、2001年の5例は少なくとも6回の接種を受けていた。

* 環境疫学調査：2001年7月、保健省はポリオ野生株が流行する地域に対して積極的な予防措置をとるために、AFP疫学調査に汚水の収集とポリオ野生株検出のための検査項目を追加した。エジプト北部7地域とエジプト南部1地域において10カ所から汚水サンプルが採取され、2000年9月から2001年12月の間に64検体（33%）にポリオウイルス1型が検出された。また、アスワンを除き、ポリオウイルス野生株が検出されたが、遺伝学的にはこれらのウイルスはポリオ患者のウイルスと同じであり、少なくとも1996年以降、野生株1型の感染が続いていると考えられる。

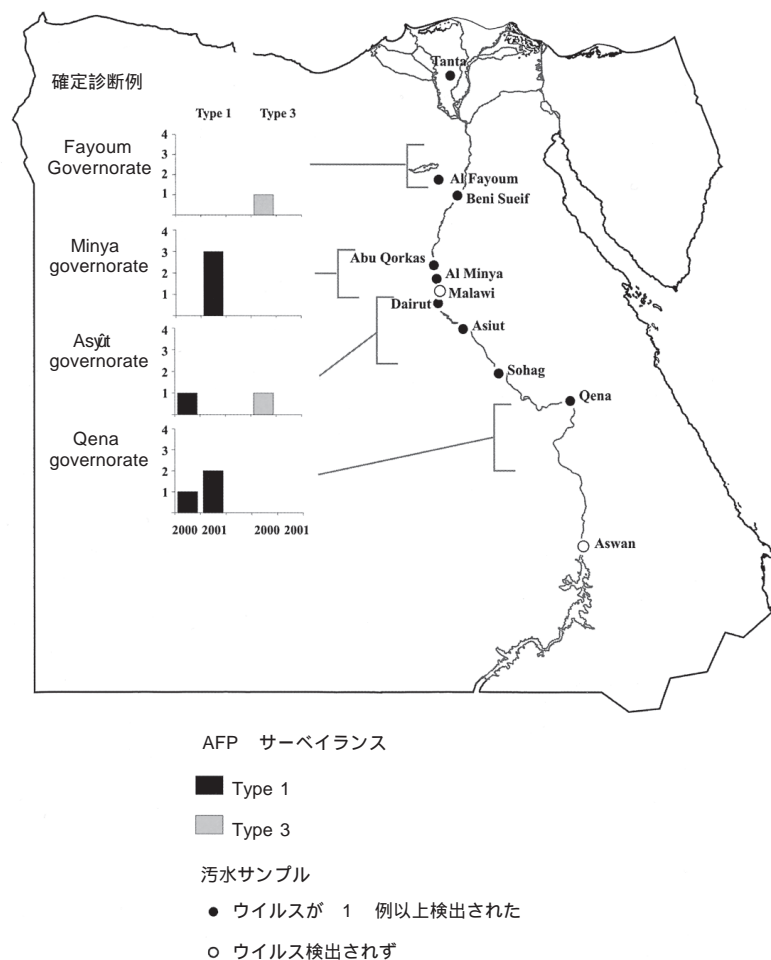
* 編集ノート：エジプトにおけるポリオ野生株の感染は、政府にとっても重大な問題である。ポリオの伝播阻止を徹底するために、エジプト全土の幼児にワクチンが行き渡るよう有効な予防接種プログラムが必要である。また、AFP疫学調査においても、エジプトでのウイルス感染のあらゆる可能性を見逃さないよう努力が要求される。エジプトの保健局は予防接種プログラムの問題点を洗い出し、その改善を行ってきたが、1999年以降のポリオ感染者の調査から、予防接種の遅れ、あるいは不履行などの問題が明らかとなり、現在出生届の不備や遅れ、ワクチンの搬送に関する問題、現地スタッフの不足、などの問題への具体的な対策が計画されている。また、流行地域では、予防接種対象年齢を5歳以下に引き下

げ、私立病院や大学病院などにも疫学調査の対象を拡げている。

長年にわたる根絶への努力にもかかわらず、エジプトでのポリオの流行は続いている。根絶目標に到達するには、他の地域で効果を上げたこれまでのポリオ根絶計画を、より完全に遂行する必要がある。

世界のポリオ根絶にとってエジプトでの成功は、非常に重要である。保健省と WHO により過去 3 年間に様々な国際協力が行われ、最近エジプトのポリオ根絶を目指す専門家グループが結成され、2002 年 3 月には初会議が開催される予定である。エジプト政府や WHO その他の協力による質の高い予防プログラムが遂行され、今後 12 ヶ月以内にエジプトはポリオを根絶することができると期待されている。

地図 1 : ポリオウイルス野生株によるポリオ患者、および汚水からウイルスが分離された箇所 エジプト、2001-2002



流行ニュースの続報：＜インフルエンザ＞

クロアチア (2002.2.18)¹ : インフルエンザ A 型、B 型ウイルスがザグレブなどで検出された。2 月第 2 週にインフルエンザ感染が急速に活発化している。フランス (2002.2.17)² : A 型 (H3N2) の集団発生は 2 月第 1 週から減少している。1 月第 3 週にリヨンで A 型 (H1N2) が検出された。ドイツ (2002.2.17)² : インフルエンザの活動は局地的に増加し、集団流行株は A 型 (H3N2) \ B 型である。ハンガリー (2002.2.8)³ : 感冒の頻度は非流行レベル、2 月第 1 週末までにウイルスは検出されていない。ノルウェー (2002.2.17)⁴ : 感冒が流行している。A/パナマ/2007/99 類似の A 型 (H3N2) ウイルスが多い。ポーランド (2002.2.17)⁵ : 2 月第 3 週には感冒罹患患者数が成人 4028 人 (10.4 人/10 万人・週) \ 14 歳以下では 1540 人 (21.5 人/10 万人・週) であり、前週と変わりなかった。肺炎又は気管支炎疑いの 3 患者からはウイルスは分離されなかった。ポルトガル (2002.2.9) : 流行は今季初めから少ない。A 型 (H3N2) が大部分であったが、A 型 (H1N1) と B 型も分離されている。ルーマニア (2002.2.9)² : 2 月第 1 週には、特に北部 5 地域と北西部で A 型 (H3N2) による急性上気道炎の罹患が増加している。B 型も分離されている。スペイン (2002.2.9)⁴ : 2 月第 1 週までにバルセロナ、マドリード、などでインフルエンザの流行が報告された。A/パナマ/2007/99 類似株を含む A 型 (H3N2) が A 型 (H1N1) より圧倒的に多い。ウクライナ (2002.2.9) : 1 月末より増加。子供の罹患が多く、A 型、B 型共に分離された。イギリス² (2002.2.20) : インフルエンザによる受診率は、アイルランド北部を除くほとんどの地域で減少傾向にある。流行は殆どが英語学校で、新型 H1N2 株が原因。 参照 : ¹ 2002 年、No.8、p66 ² 2002 年、No.4、p30-31 2001 年、No.41、p324 ⁴ 2002 年、No.7、p.56 ⁵ 2001 年、No.44、p344 (久保有美、前田淳奈、佐浦隆一、小西英二)